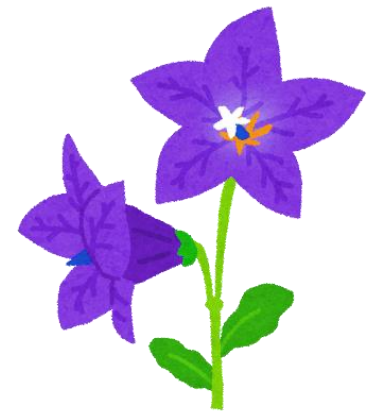




教学IRをきっかけとする 教学改善の事例の紹介

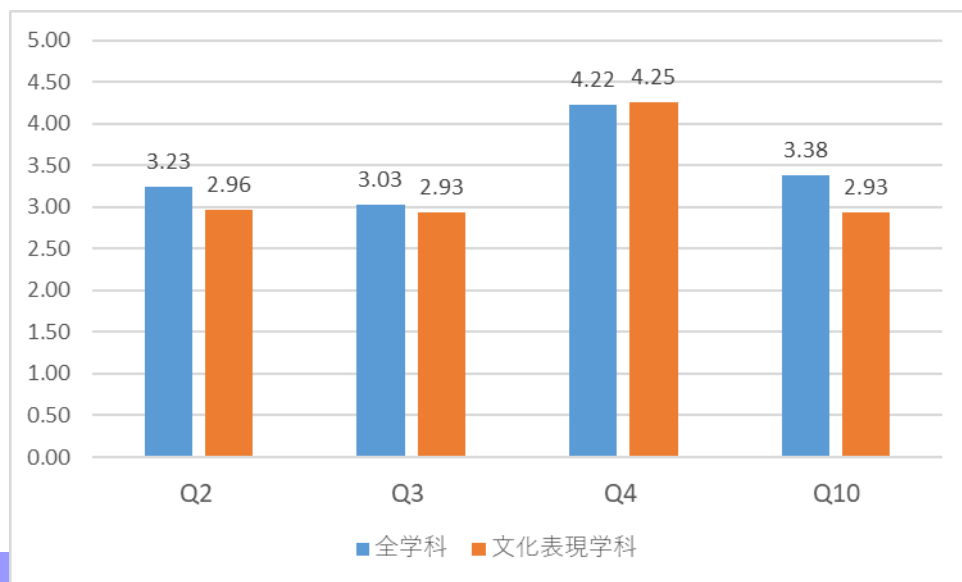
秋草学園短期大学 IR推進室





● 2020年度前期のコンピテンシー到達度自己評価のアンケート

- ◆ Q2・Q3・Q4・Q10はコミュニケーションに関する質問
- ◆ Q4の受け身的なコミュニケーションに比べ、全学科共通でQ2・Q3・Q10の能動的なコミュニケーションが苦手であることが分かります。
- ◆ また、他の学科に比べ、文化表現学科の学生はQ4の受け身的なコミュニケーションは得意だが、Q2・Q3・Q10のような能動的なコミュニケーションを苦手に行っていることが分かります。



各質問の回答の選択肢は「全肯定」、「肯定」、「中間」、「否定」、「全否定」で、各選択肢を5、4、3、2、1として、計算をしています。

Q2：あなたは他人と積極的に話をすることができますか。

Q3：あなたは自分の考えや意見を人前ではっきりと話すことができますか。

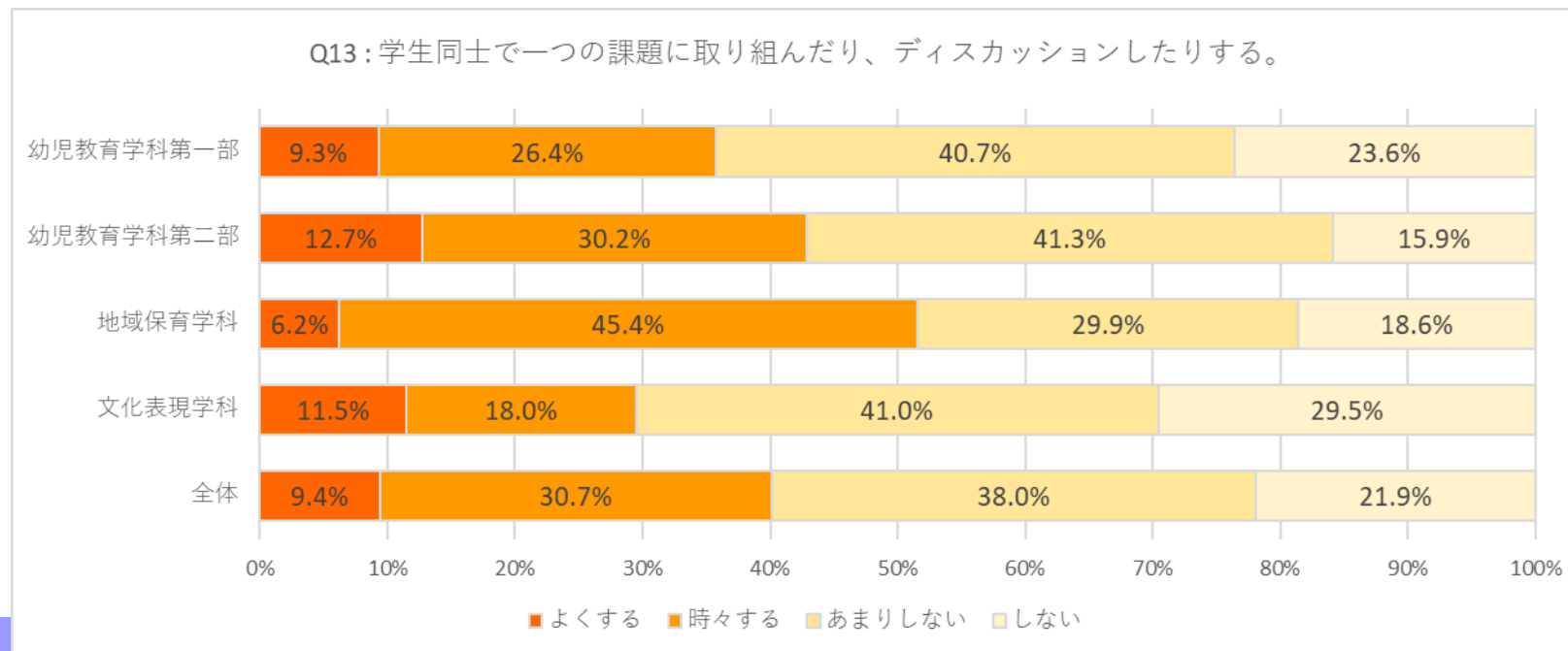
Q4：あなたは他者の考えや意見をじっくり聞くことができますか。

Q10：あなたは誰とでも気軽に話すことができますか。



2020年度前期の学修時間・学修実態のアンケート

- ◆ Q13：学生同士で一つの課題に取り組んだり、ディスカッションしたりする。
- ◆ 他の学科の学生に比べ、文化表現学科の学生はQ13のような行動を取っていないことが分かります。





教学改善事例① ヒューマンスキル演習の授業の新規開講

- これらのアンケート結果から、教学改善として、文化表現学科ではコミュニケーション能力向上を目指した「ヒューマンスキル演習」の授業を2022年度に新規開講しました。



教学改善事例② 授業評価が低い教員への指導

- 半期ごとに行なっている授業評価アンケートの集計結果を分析し、授業評価が低い教員を抽出しています。
- IR推進室では授業評価が低い教員とその教員の授業への学生コメントをまとめ、学長へ報告しています。
- その報告結果から学長は授業評価が低い教員の指導を行ない、教学改善を図っています。